



# 東京言語研究所 公開講座

## 人工知能から考える 「人と言葉」

＜講師＞ 川添 愛氏（作家）

＜日時＞2018年5月26日(土) 14:00～17:00

＜会場＞東京言語研究所

(新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル 13階 ラボ教育センター内)

＜参加費＞一般 2,000 円

学生, ラボ・チューター 1,500 円

\*2018年度理論言語学講座受講生は1000円

※参加費は当日現金でお支払下さい。

定員  
50名

＜申込み＞「ホームページ申込みフォーム」、もしくは「FAX(HPよりダウンロード)」で  
お申し込みください。4月21日より申込開始

- ①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦ Eメールアドレス ⑧区分 (2018年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属 (大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。)



講師  
略  
歴

2005年、九州大学大学院にて博士(文学)取得。2002年から2016年まで、国立情報学研究所研究員、津田塾大学特任准教授、国立情報学研究所特任准教授を歴任。最新刊は『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』(朝日出版社)、『自動人形の城 人工知能の意図理解をめぐる物語』(東京大学出版会)。

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講演要旨  
は裏面へ

## 【講義要旨】

人工知能（AI）のブームが続いている。囲碁や将棋においてはAIが人間のプロを打ち負かし、画像処理では画像を認識するのみならず、本物の写真と見間違えるような画像を生成するAIも出てきている。そのめざましい進歩の一方で、「AIが独自言語を開発した」「AIが子供を産む能力を得た」「AIがとうとう人間すべての能力を超えた」「AIが人間を滅ぼそうと計画している」などのような噂もたびたび囁かれている。AIに世界中の優秀な人材と資金が投入されている現在、過去に例をみない速度で技術が進んでいるのは事実であるが、「言語理解」という面で言えば、人間の能力を超えるAIはまだ存在しないし、そのようなものができる目処も立っていないのが現状である。

本講座では、主に言語学を専門とする方、また言語学に興味のある方を対象に、言語を扱うAIの現状を大まかに解説する。前半では、AI技術において中心的な役割を果たしている機械学習について概観し、後半では音声認識や質問応答、推論システムなどのしくみ、またそれらと人間の言語理解との相違について説明する。本講座を、これからの時代に言語学（者）が果たすべき役割を考えるきっかけにしていただければ幸いである。